

文部科学省実績評価書－平成21年度実績－（要旨）

平成22年8月
文部科学省

1. 趣旨

「文部科学省の使命と政策目標」の実現に向けて文部科学省が平成21年度に取り組んだ施策について実績評価を実施。

2. 実績評価書の主な内容

平成21年度の実績状況及び評価結果について、13政策目標及び47施策目標ごとに評価を実施すると共に以下の点について記載

(1) 政策目標

- ・政策を構成する施策の背景や根拠（関連する施政方針演説や行政計画など）

(2) 施策目標

- ・施策目標と施策目標を実現するための達成目標との関係性、それぞれの判断基準と、達成度合いを示すための指標
- ・施策目標について、施策の必要性・有効性・効率性分析

3. 主な改善点及び変更点

○ 評価結果

- ・評価結果の文章化(政策目標、及び、施策目標の総括的評価を、文章による記載に変更。)
- ・事業仕分けや行政事業レビューで指摘を受けた事項で、施策への反映状況について、本実績評価においても、その状況を記載。

○ 見やすさの観点からの整理

- ・「政策評価に関する情報の公表に関するガイドライン」(平成22年5月28日 政策評価各府省連絡会議了承)に基づき、政策評価を行う過程で使用したデータの「名称」「作成者」「作成時期」「基準時点又は対象期間」「所在(URL等)」を記載。
- ・重複記述、冗長文の排除。

4. 評価結果

評価の結果(Check)を、政策や予算要求に反映(Action)へ円滑に繋がられるよう、課題や問題点を明らかにする形で記載。

(※ 別添参照)

政策目標1 生涯学習社会の実現

- 【概要】 生涯にわたって学習機会が提供され、学んだ成果が適切に評価される社会を実現する。このため、5つの施策によってその目的の達成を目指す。
- 【評価】 生涯学習社会の実現に向けた、教育改革に関する基本的な政策の推進等、生涯を通じた学習機会の拡大、地域の教育力の向上、家庭の教育力の向上、ICTを活用した教育・学習の振興の取組は、順調に進捗した。

○教育改革に関する基本的な政策の推進等（施策目標1-1）

豊かな人間性を備えた創造的な人材育成のための教育改革に関する周知・啓発活動や、教育改革を支えるために基本となる教育統計調査、国際研究協力活動等の取り組みは、順調に進捗した。今後は、根拠・データにもとづいた施策立案の推進のため、教育の費用対効果分析を一層進めることが課題である。【達成目標 A・A・A】

○生涯を通じた学習機会の拡大（施策目標1-2）

放送大学における幅広い年齢層や有職者等に対する教育機会の提供、専修学校における社会人及び留学生受入れ数など、各達成目標の結果から、本施策は順調に進捗した。【達成目標 A・A・A・A・A・A】

○地域の教育力の向上（施策目標1-3）

社会教育主事講習・公民館職員専門講座の受講状況等について一部基準前年度の指標から数値が低下した部分もあるものの、いずれの判断基準においても、様々な機関の連携や、取組の充実が図られていることから、多様な学習活動の機会や、情報提供等が進められたことが表れていることから、地域の教育力の向上のために効果的な施策が実施されており、本施策は順調に進捗した。【達成目標 A・A・A・A・A】

○家庭の教育力の向上（施策目標1-4）

家庭教育支援チームによる訪問支援手法の開発については、21年度限りで事業が廃止となったため、十分な開発を行うことができなかったモデルもあったものの、家庭教育支援チームによる訪問支援手法の開発、地域SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）を活用した支援の有効性、子どもの生活習慣づくりに関する取組を実施する都道府県数等、各達成目標の結果から、本施策は順調に進捗した。【達成目標 A】

○ICTを活用した教育・学習の振興（施策目標1-5）

エル・ネットや生涯学習番組等の指標（アクセス件数や視聴率）は、前年度からの伸び率は高くはないものの、それぞれ前年度を上回っており、一定の成果はあった。「デジタルテレビ等を活用した先端的教育・学習に関する調査研究事業」については、モデル校全体としては優れた内容の授業実践例が報告された。各達成目標の結果から、本施策は順調に進捗した。【達成目標 A・S・A】

政策目標2 確かな学力の向上、豊かな心と健やかな体の育成と信頼される学校づくり

- 【概要】 確かな学力の向上、豊かな心と健やかな体を育成することのできる社会を実現するとともに信頼される学校づくりを進めるため、11の施策によってその目的の達成を目指す。
- 【評価】 一部の施策目標・達成目標については、依然として十分に達成できたとは言えないものも存在するが、施策目標の多くについて十分な進捗が見られた、または一定の成果があがったと判断できる。

○確かな学力の育成（施策目標2-1）

基礎・基本を徹底し、自ら学び自ら考える力などまで含めた「確かな学力」を身に付けさせるため、学習指導要領の目標・内容に照らした児童生徒の学習状況の改善を図るとともに、学校図書館の機能の充実や、学校における教育の情報化の充実、退職教員や経験豊かな社会人等の活用、英語教育の充実などの諸施策を実施した。本施策は順調に進捗したが、国内外の学力調査等の結果を分析した結果、前年を下回る数値が見られるなど、一部課題が見られた。【達成目標 B・A・B・B・A・A】

○豊かな心の育成（施策目標2-2）

子どもたちに豊かな人間性と社会性を育むための教育を実現するため、学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた道徳教育を推進し、また、学校における体験活動や人権教育を推進した他、児童生徒が勤労観・職業観を身につけるためのキャリア教育の充実を図った。達成目標は順調に進捗した。【達成目標 A・A・S】

○児童生徒の問題行動等への適切な対応（施策目標2-3）

いじめられた児童生徒が誰にも相談していない件数の割合や、不登校児童生徒に占める、学校内外の相談機関等で指導などを受けた児童生徒の割合など、各指標の結果から学校内外における相談体制の整備について一定の成果が上がったと判断できるが、地域の関係機関と連携協力した学校数の割合が前年度より減少するなど、一部課題が見られた。【達成目標 A】

○青少年の健全育成（施策目標2-4）

平成21年度において、まず青少年の有害環境対策については、昨年度に引き続き「携帯電話・PHS事業者各社のフィルタリングサービス利用者数実績」が前年度と比較して大幅に増加し、また、「携帯電話・PHSを利用する際のルール」についても、「ルールがある」と回答した中学2年生の割合が前年度よりも上昇するなど、普及・啓発活動は想定どおり達成できた。また、青少年の国際交流については「当該年度における交流事業プログラムの満足度」も昨年同様高い水準にあり、交流プログラムの充実が図られている。しかしながら、青少年の体験活動について「学校以外の公的機関や民間団体等が行う自然体験に関する行事に参加した子ども（小学1年生～6年生）の割合」は、不況等の影響により前年度に比べて8.6%減少しており、今後に向けた課題が見られる。以上のことより、平成21年度については、想定通り達成出来た事業はあるものの、一部については来年度以降に向けた課題が見られた。【達成目標 B・A・A・B・B】

○健やかな体の育成及び学校安全の推進（施策目標2-5）

学校保健委員会の設置率や薬物乱用防止教室の開催率の上昇、栄養教諭配置数や学校給食における地場産物の使用割合の増加、地域のボランティアによる学校内外の巡回・警備が行われている小学校の割合や子どもの安全対応能力の向上を図るための取組を実施している各学校の割合の高水準維持など、各達成目標の結果から、本施策は順調に進捗した。【達成目標 B・A・A】

○地域住民に開かれた信頼される学校づくり（施策目標2-6）

学校関係者評価等の取組の充実を通じ、保護者や地域住民等と教職員との共通理解及び学校改善に向けた連携・協力を促した。また、保護者や地域住民が一定の権限と責任を持って公立学校運営に参画できる仕組みである「学校運営協議会制度」を活用した取組の推進を図った。さらに、多様化する生徒のニーズを考慮しつつ、生徒や保護者、地域、社会のニーズに対応した特色ある高等学校づくりのため、総合学科、単位制高等学校、中高一貫教育校の設置促進などを通じた高等学校教育改革を推進した。これらの取組を通じ、本施策目標は、順調に進捗した。【達成目標 S・A・A】

○魅力ある優れた教員の養成・確保（施策目標2-7）

教員免許更新制の導入や新しい教員評価システムの実施などを通じて、教員の資質能力の向上を図る施策を行った。免許状更新講習の開設状況においては、すべての都道府県で必要な講習量を確保できており、体制の整備は順調に進捗している。また大学と教育委員会の連携や教員評価システムの実施についても順調に進展したと判断した。【達成目標 A・S・A】

○安全・安心で豊かな学校施設の整備推進（施策目標2-8）

公立小中学校、幼稚園、特別支援学校の施設の耐震化の進捗率、震度6強以上の大規模な地震（以下「大規模な地震」という。）による倒壊等の危険性の高い公立小中学校施設の減少棟数共に、順

調に進捗した。ただし、耐震化、耐震診断のどちらも未だ完了には至っておらず、今後も耐震化の加速により事業量の増加が見込まれるため、地方公共団体からの要望を踏まえて必要な予算額を引き続き確保していく必要がある。【達成目標 A】

○教育機会の確保のための特別な支援づくり（施策目標2-9）

日本語指導が必要な外国人児童生徒への指導については、達成目標にやや遅れが見られるものの、全体的に順調に進捗したと判断できる。【達成目標 A・B・A】

○幼児教育の振興（施策目標2-10）

「認定こども園」制度の普及促進や子育て支援事業の充実については進捗にやや遅れが見られるものの、全体としては順調に進捗した。【達成目標 B・A・B・A】

○一人一人のニーズに応じた特別支援教育の推進（施策目標2-11）

一人一人のニーズに応じた特別支援教育の推進のための取組みは、全体として、順調に進捗した。【達成目標 A・A】

政策目標3 義務教育の機会均等と水準の維持向上

【概要】 全国すべての地域において優れた教職員を必要数確保し、教育の機会均等と教育水準の維持向上を図る。このため、1の施策によってその目的の達成を目指す。

【評価】 義務教育費国庫負担制度に基づき、公立義務教育諸学校の教職員の給与費について都道府県が負担した3分の1を国が負担することにより、全ての都道府県において教員定数が充足され、公立義務教育諸学校における学級規模と教職員の配置の適正化に成果を上げている。また、主幹教諭のマネジメント機能の強化のための教員定数の加配措置を行うことにより、主幹教諭が学校の管理運営等の業務に多く従事できるようになり、教員が子どもに向き合う時間の確保に成果を上げている。これらのことから、本政策は予定通り順調に進捗した。

○義務教育に必要な教職員の確保（施策目標3-1）

義務教育費国庫負担制度に基づき、公立義務教育諸学校の教職員の給与費について都道府県が負担した3分の1を国が負担することにより、全ての都道府県において教員定数が充足され、公立義務教育諸学校における学級規模と教職員の配置の適正化に成果を上げている。また、主幹教諭のマネジメント機能の強化のための教員定数の加配措置を行うことにより、主幹教諭が学校の管理運営等の業務に多く従事できるようになり、教員が子どもに向き合う時間の確保に成果を上げている。これらのことから、本政策は予定通り順調に進捗した。

【達成目標 S】

政策目標4 個性が輝く高等教育の振興

【概要】 「知識基盤社会」において、我が国が活力ある発展を続けていくために、高等教育を時代の牽引役として社会の負託に十分応えるものへと変革する一方、社会の側がこれを積極的に支援するという双方向の関係を構築する。

【評価】 我が国の「知識基盤社会」の発展を支える、「大学などにおける教育研究の質の向上」、「大学などにおける教育研究基盤の整備」は順調に進捗した。

○大学などにおける教育研究の質の向上（施策目標4-1）

施策目標4-1「大学などにおける教育研究の質の向上」を達成するために、「大学における教育内容・方法等の改善・充実を図り、各大学の個性・特色を踏まえた人材の育成機能を強化するとともに大学の国際競争力の強化及び大学における国際的に活躍できる優秀な人材の育成を推進する。」等5つの達成目標を設定しており、順調に進捗した。【達成目標 A・A・A・A・A】

○大学などにおける教育研究基盤の整備（施策目標4-2）

第2次国立大学等施設緊急整備5か年計画（平成18年度～平成22年度）（以下、「第2次5か年計画」という。）による、老朽再生整備や狭隘解消整備など一部にやや遅れがみられるものの、大学附属病院の再生や共同利用スペースの保有面積状況、新たな整備手法による施設整備の実施件数など、各達成目標の達成状況から本施策は順調に進捗した。【達成目標 B・A・S】

政策目標5 奨学金制度による意欲・能力のある個人への支援の推進

- 【概要】 学生が経済面で心配することなく、安心して学べるよう、奨学金制度による意欲・能力のある個人に対する支援を一層推進する。このため、1の施策によってその目標の達成を目指す。
- 【評価】 奨学金事業について、対前年度比6万人の貸与人員の増員を行った結果、奨学金の貸与を受けることにより修学可能となった学生の割合が85.62パーセントとなっており、施策目標5-1の下の達成目標については、判断基準5-1-1「日本学生支援機構による奨学金事業を充実させ、学生が経済的な面で心配することなく、安心して学べるよう、修学機会の確保を図る。」という観点から想定どおりに達成できた。なお、高等学校等奨学金事業は平成17年度入学者から順次都道府県へ移管されており、都道府県が実施する高等学校等奨学金事業の財源として、高等学校等奨学金事業交付金を交付している。達成目標を達成することで、意欲のある学生への支援体制の整備という点で学ぶ意欲と能力のある学生が経済的な面で心配することなく、安心して学べる環境の整備に資したと考える。

○意欲・能力のある学生に対する奨学金事業の推進（施策目標5-1）

教育の機会均等の観点から、意欲・能力のある学生が経済的な面で心配することなく、安心して学べるよう、日本学生支援機構の奨学金事業を充実し、教育費負担の軽減を図る。奨学金事業について、対前年度比6万人の貸与人員の増員を行った結果、奨学金の貸与を受けることにより修学可能となった学生の割合が85.62パーセントとなっており、施策目標5-1の下の達成目標については、判断基準5-1-1「日本学生支援機構による奨学金事業を充実させ、学生が経済的な面で心配することなく、安心して学べるよう、修学機会の確保を図る。」という観点から想定どおりに達成できた。なお、高等学校等奨学金事業は平成17年度入学者から順次都道府県へ移管されており、都道府県が実施する高等学校等奨学金事業の財源として、高等学校等奨学金事業交付金を交付している。達成目標を達成することで、意欲のある学生への支援体制の整備という点で学ぶ意欲と能力のある学生が経済的な面で心配することなく、安心して学べる環境の整備に資したと考える。【達成目標 A】

政策目標6 私学の振興

- 【概要】 建学の精神に基づく個性豊かな活動を積極的に展開して、我が国の学校教育の発展にとって、質・量共に重要な役割を果たしている私立学校の振興のため、その教育研究条件の維持向上と在学する学生生徒の修学上の経済的負担の軽減を図るとともに、経営の健全性を高めることを目的として、様々な振興策を講じている。
- 【評価】 我が国の学校教育の発展において重要な役割を果たしている私立学校の振興に向けた取組は、順調に進捗した。

○特色ある教育研究を展開する私立学校の振興（施策目標6-1）

私立学校の振興に向け、教育研究条件の維持向上を図るとともに経営の健全性を高めることを目指してきた。少子化に伴い学生数が減少する中で、引き続き、私学助成や学校法人への指導・助言等を行った。達成目標6-1-1（教育研究条件の維持向上及び学生生徒の修学上の経済的負担の軽減等）においては、判断指標が前年度に引き続き改善されているが、学生納付金については依然上昇傾向にあり、引き続き学生・生徒の就学上の経済的負担の軽減に努める必要がある。また、達成目標6-1-2（私立学校を設置する学校法人の経営の健全性、経営基盤の強化）においては、大

臣所轄の学校法人の総負債比率、大臣所轄の学校法人の寄付金比率及び財務情報等の一般公開を行っている大臣所轄の学校法人の割合については、前年度に引き続き数値の改善が図られており、**各学校法人それぞれが経営努力を行っている成果が出た。**しかし、少子化に伴う18歳人口の急激な減少等社会情勢の変化等の影響により、帰属収入で消費支出を賄えない大臣所轄の学校法人の割合については年々数値が増加傾向にある。【達成目標 A・A】

政策目標7 科学技術・学術政策の総合的な推進

【概要】 科学技術と社会との調和に配慮し、国民、地域、国際等の視点に立ち、科学技術・学術政策を総合的に推進する。このため、5の施策によってその目的の達成を目指す。

【評価】 科学技術関係人材の育成及び科学技術に関する国民意識の醸成、科学技術が及ぼす倫理的・法的・社会的課題への責任ある取組の推進、地域における科学技術の振興、科学技術システム改革の先導、科学技術の国際活動の戦略的推進に向けた取組は、**順調に進捗した。**

○科学技術関係人材の育成及び科学技術に関する国民意識の醸成（施策目標7-1）

理数に興味・関心の高い生徒・学生の能力を伸ばすための取組、理科好きな子どもの裾野を拡大する取組及び若手などの活躍を促進するための取組が着実に実施されるとともに、科学技術に関する高度な専門的応用能力を持って計画、設計等の業務を行う技術士の登録者数が着実に増加しており、科学技術関係人材の質と量が順調に確保されている。専門高校においては、地域社会等と連携した取組が着実に実施されており、産業社会のニーズに対応した人材育成が図られている。また、科学技術を国民に分かりやすく伝え、国民の科学技術に対する興味・関心と基礎的な知識・能力を高める取組も着実に実施されており、科学技術関係人材の育成及び科学技術に関する国民意識の醸成については、**順調に進捗した。**【達成目標 A・S・A・A】

○科学技術が及ぼす倫理的・法的・社会的課題への責任ある取組の推進（施策目標7-2）

平成21年度においては、現下の生命倫理上の諸課題（平成16年から継続中の懸案を含む。）について、文部科学省において精力的に検討を進めた結果、関係指針の整備を行うなど、具体的な進展が図られた。また、研究の発展・動向を踏まえた生命倫理に関する法令・指針の整備・運用を実施したことにより、諸課題に適切に対応したため、本施策は**順調に進捗した。**【達成目標 A】

○地域における科学技術の振興（施策目標7-3）

地域における科学技術の振興が図られ、世界レベルのクラスター及び小規模でも地域の特色を活かした強みを持つクラスターが各地に形成されつつあり、本施策は**順調に進捗した**と考えられるが、取組が不十分である地域もあるため、今後改善する必要があると考えられる。【達成目標 A・A】

○科学技術システム改革の先導（施策目標7-4）

全ての達成目標において、評価結果から、科学技術システムの改革や研究開発の効果的・効率的推進に向けた取組が図られるとともに、優れた研究成果の創出や活用が促進され、**順調に進捗した。**【達成目標 A・A・A・A・A】

○科学技術の国際活動の戦略的推進（施策目標7-5）

国際的な人材獲得競争が激化する中で、研究者の受入れ数は増加しており、研究者の海外派遣についても、近年減少傾向であったところ平成21年度においては微増となり、科学・技術外交の戦略的推進による重層的な協力関係の構築が進められており、本施策は**順調に進捗した。**国際的な人材獲得競争の激化や世界の多極化が進んでおり、今後もさらなる科学技術の国際活動の戦略的推進が求められる。【達成目標 A・A】

政策目標8 原子力の安全及び平和利用の確保

【概要】 原子力の研究開発利用活動による災害及び放射線の障害を防止し、公共の安全を確保するため安全規制を行うとともに、核物質の適正な計量管理、封印／監視、査察等を行うこと

により、その平和利用を確保する。また、国民の信頼を得るために安全規制活動の透明性を確保する。

【評価】「原子力安全対策、核物質の防護及び転用の防止、並びに環境放射能の把握原子力災害」が概ね想定どおり達成されたことから、「原子力の安全及び平和利用の確保」が順調に進捗した。

○原子力安全対策、核物質の防護及び転用の防止、並びに環境放射能の把握（施策目標8-1）

平成21年度において、原子力災害、核燃料物質等の防護を破る盗取・妨害破壊行為が発生しなかったこと、国内にある核物質が核兵器等に転用されていないことが国際原子力機関（IAEA）により確認されたこと、原子力艦寄港に伴う環境中の放射性物質の動向等の調査を行い、放射線レベルを把握したこと及び必要な情報発信やプレス発表が行われていたことから、順調に進捗した。【達成目標 A・A・A・A・A】

政策目標9 基礎研究の充実及び研究の推進のための環境整備

【概要】 学術研究の振興や優れた研究成果の創出・活用の促進を図るとともに、科学技術振興のための基盤を強化する。このため、3つの施策によってその目的の達成を目指す。

【評価】 基礎研究の充実及び研究の推進のための環境整備に向けた取組である、学術研究の振興、研究成果の創出と産学官連携などによる社会還元のための仕組みの強化、科学技術振興のための基盤の強化は、順調に進捗した。

○学術研究の振興（施策目標9-1）

共同利用・共同研究体制等による大学・大学共同利用機関等における独創的・先端的基礎研究の推進、科学研究費補助金の制度改革を通じた優れた研究成果の創出など、各達成目標とも順調に進捗した。今後も、政府の動向や科学技術・学術審議会学術分科会の報告等を踏まえ、大学・大学共同利用機関等における研究基盤に対する安定的・継続的な支援、科学研究費補助金の拡充や制度改革等に取り組むことが必要である。【達成目標 A・A・A】

○研究成果の創出と産学官連携などによる社会還元のための仕組みの強化（施策目標9-2）

「戦略的創造研究推進事業」等により、社会への展開が期待される優れた研究成果が創出された。また、大学等における企業との共同研究実績は分野全体としては昨年度と同程度であったものの、例えばグリーン・イノベーション、ライフ・イノベーション等の分野においては共同研究実績が向上しているなど、総じて大学等の研究成果の社会還元は順調に進捗した。【達成目標 S・B】

○科学技術振興のための基盤の強化（施策目標9-3）

創造的・独創的な研究開発活動を支える先端計測・分析機器実現のコアとなる要素技術及びプロトタイプ機の開発において着実な成果が創出され、先端的研究施設・設備の共用実績や先端的な施設・設備を用いて得られた研究成果実績は増加しており、先端的な研究施設・設備・機器、知的基盤等の整備や効果的な利用の促進は順調に進捗した。なお、次世代スーパーコンピュータプロジェクトについては、開発者側の視点から利用者側の視点へと転換を図り、多様なユーザーニーズに応える革新的な計算環境（革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラ）の構築を行うこととしており、今後、その取組みを推進する必要がある。【達成目標 S・A・A・A・S】

政策目標10 科学技術の戦略的重点化

【概要】 国家的・社会的課題に対応する研究開発の重点化した推進と新興・融合領域への先見性、機動性をもった対応を実現する。このため、8つの施策によってその目的の達成を目指す。

【評価】 科学技術の戦略的重点化を実現するための8つの施策全てについて、十分な進捗が得られている、または着実な進展が見られると判断でき、各施策目標は順調に進捗した。

○ライフサイエンス分野の研究開発の重点的推進（施策目標10-1）

「生命現象の統合的全体像の理解」を目指した研究、「研究成果の実用化のための橋渡し」等の推進および「世界最高水準の基盤」の整備のいずれにおいても、研究拠点の整備や研究の進展状況等より、**順調に進捗した。**【達成目標 A・A・A】

○情報通信分野の研究開発の重点的推進（施策目標10-2）

高度なIT技術により可能となる計算科学技術（シミュレーション）の推進や研究開発の基盤を支える計算資源・大規模データの効率的な利活用のための技術開発に取り組んだほか、ITの高度化・大規模化により発生している消費電力の抑制や情報システムの信頼性向上などの課題の解決のため、大学等の世界トップレベルの技術シーズ（スピントロニクス等）を活用し産学連携体制による研究開発を進めるなど、各達成目標ともに順調に進捗しており、施策目標としても**順調に進捗した。**今後、各事業間や他省プロジェクトとの連携を深めつつ、各事業での成果の利活用が効果的に図られるよう、研究開発を進めることが必要である。【達成目標 A・A・A】

○環境・海洋分野の研究開発の重点的推進（施策目標10-3）

人工衛星、ブイ等を活用した大気、海洋、陸域における観測や気候変動予測に関する研究、南極域における研究・観測の推進、海底熱水鉱床やコバルトリッチクラストなどの海洋資源開発に資する基盤的なセンサー等の技術開発の実施等により、各達成目標について、**順調に進捗した。**【達成目標 A・A】

○ナノテクノロジー・材料分野の研究開発の重点的推進（施策目標10-4）

ナノテクノロジー・材料を中心とした融合新興分野研究開発、ナノ計測・加工技術の実用化開発の推進については、全体として想定通り順調に進捗し、ナノエレクトロニクス領域、材料領域、ナノバイオテクノロジー・生体材料領域、ナノテクノロジー・材料分野推進基盤領域において、技術革新につながる成果、独自性・優位性の高い成果が創出されたことから、全体として**順調に進捗した。**【達成目標 A】

○原子力分野の研究・開発・利用の推進（施策目標10-5）

高速増殖炉サイクル技術や核融合技術等の研究開発、量子ビームテクノロジー等の幅広い分野での利活用の促進、原子力分野の研究・開発・利用の基盤整備等の施策は**順調に進捗した。**このうち原子力システム研究開発事業については、事業仕分けにおいて、戦略性・効率性を考えた制度が必要との指摘を受けたこと等を踏まえ、事業目的をさらに明確化した上で、提案書に将来の原子力技術を担う人材の育成への貢献について記述させ、これを採択の観点に入れる等の改善を行った。引き続き、効果的な施策を立案・推進していくための改善を重ねていく必要がある。【達成目標 A・S・A】

○宇宙・航空分野の研究・開発・利用の推進（施策目標10-6）

衛星システムの開発・運用及び利用、宇宙輸送系、宇宙科学の分野、日本実験棟「きぼう」の開発・運用・利用及び宇宙ステーション補給機（HTV）の開発、航空科学技術分野の各施策は、**順調に進捗した。**GXロケットに関しては、事業仕分けの結果等を参考に決定された四大臣（内閣官房長官、宇宙開発担当大臣、文部科学大臣、経済産業大臣）合意を受けて、GXロケットへの搭載を前提とした予算計上は見送り、将来的な国内外のロケットや軌道間輸送への適用を視野に、国際競争力ある汎用性の高いLNGエンジン技術の確立を図ることとした。

【達成目標 A・A・A・A・A・A】

○新興・融合領域の研究開発の推進（施策目標10-7）

光・量子科学技術に関する研究開発の推進や、セミナーの開催や若手育成プログラムの実施等の人材育成に資する取組、ナノテクノロジーを活用した環境技術開発に関する拠点の採択・設置など、新興・融合領域の研究開発に資する取組について**順調に進捗した。**光・量子科学技術については、産業界との連携の一層の強化や、各課題間のさらなる更なる相互協力を図り、効果的な成果の創出に努める必要がある。【達成目標 A・A】

○安全・安心な社会の構築に資する科学技術の推進（施策目標10-8）

豊かで安全・安心で快適な社会を実現するための研究開発等を行い、これらの成果を社会に還元するため、我が国では、内閣府の「安全に資する科学技術推進戦略」（平成18年6月）及び文部科学省の「安全・安心科学技術に関する研究開発の推進方策」（平成18年7月）において、危

機事態（大規模自然災害、重大事故、新興・再興感染症、食品安全問題、テロリズム、情報セキュリティ、各種犯罪、その他）別の推進方策が示されている。本施策では他の政策目標との重複を除き、そのうち、「大規模自然災害」「テロリズム」及び「その他」について取り組んだ。地震及び火山に関する調査研究や、災害発生時の被害軽減を目指した防災科学技術に関する研究開発の推進、自然災害に強い安全・安心な社会の構築に向けた科学技術基盤の確立、科学技術的知見の現場における活用など、順調に進捗した。【達成目標 A・A・A】

政策目標11 スポーツの振興

- 【概要】 世界共通の人類の文化の一つである、スポーツの振興により、生涯スポーツ社会の実現に向けて地域におけるスポーツ環境を確保するとともに、わが国の国際競技力を向上させ、子どもから大人まで心身ともに健全な明るく豊かで活力のある社会を実現する。スポーツ振興基本計画に明記されている政策目標に基づき、3つの施策によってその目的の達成を目指す。
- 【評価】 21年度は、各施策についてそれぞれ一定の成果をあげており、順調に進捗した。その一方、取組の中で新たな課題が判明した分野もあり、それに対応して効果的な施策をさらに立案・推進していく必要がある。

○子どもの体力の向上（施策目標11-1）

子どもの体力の向上について、各達成目標の判断基準に照らして順調に進捗した。ただし、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の取組により、運動をほとんどしない層の存在や地域間格差、生活習慣・授業の工夫と体力水準の関連等の実態が新たに判明しつつあることから、そうした知見も活かしながら、効果的な施策をさらに立案・推進していく必要がある。【達成目標 A・A・S・A】

○生涯スポーツ社会の実現（施策目標11-2）

平成21年度内閣府の実施した世論調査から推計すると成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率は45.3%であり、経年的には着実に増加していることから、生涯スポーツ社会の実現に向けて順調に進捗した。他方、スポーツ指導者の確保・活用については先進的な研修プログラムの元、指導者の養成が図られており、十分な進捗が得られているものの、地域のスポーツ環境の整備状況については、その方策の一つである「総合型地域スポーツクラブの全国展開」について既育成市区町村が約65%であり、進捗にやや遅れが見られる。【達成目標 B・A】

○国際競技力の向上（施策目標11-3）

国際競技力向上のための諸施策（強化活動への補助、指導者の養成・配置、スポーツ医科学等のサポート等）を着実に実施しており、平成20年8月の北京オリンピック競技大会（メダル獲得率1.94%（銀3、銅2））では、過去5回の夏季大会でアテネ大会に次ぐメダル数、過去最高の入賞種目数（アテネ大会と同数）を達成するとともに、平成22年2月のバンクーバー冬季オリンピック競技大会（メダル獲得率2.61%（金9、銀6、銅10））では、冬季大会史上、過去3番目のメダル獲得数及び入賞種目数を達成するなど、一定の成果が見られた。

一方、両大会を合わせたメダル獲得率については、2.47%にとどまっており、今後、更なる戦略的な強化を図る必要がある。【達成目標 A・A・S】

政策目標12 文化による心豊かな社会の実現

- 【概要】 優れた芸術文化の振興を図るとともに、我が国固有の伝統文化を継承・発展させることにより、文化による心豊かな社会を実現する。このため4の施策によってその目的の達成を目指す。
- 【評価】 『文化芸術の振興に関する基本的な方針（第2次基本方針）』において、重点的に取り組むべき事項として掲げられている「芸術文化の振興」、「文化財の保存と活用の充実」、「日本文化の発信及び国際文化交流の推進」、「文化芸術振興のための基盤の充実」に向

けた取組は、各分野で順調に進捗した。

○芸術文化の振興（施策目標12-1）

新進芸術家等の養成については、平成20年度派遣者の多くが21年度も継続的に派遣されたため21年度新規派遣者数が減少し、目標を下回った。

この他は想定通り進捗しており、我が国の芸術文化活動水準の向上を図るとともに、国民全体が芸術文化活動に参加できる環境を整備するという基本目標の達成に寄与したものと見える。今後、平成21年度の事業仕分けの評価結果（「優れた芸術活動への重点的支援」等の事業について「予算縮減」）及び文部科学省が実施した意見募集において寄せられた意見等を踏まえて、文化芸術活動に対する支援の在り方をはじめとして事業の見直しを図りつつ、文化芸術活動に対するより望ましい支援施策を推進する必要がある。【達成目標 A・B・A】

○文化財の保存と活用の充実（施策目標12-2）

文化財行政担当者研修への参加状況を示す参考指標において前年度の数字を下回るなど課題がみられたが、全ての判断基準について十分な進捗が得られた。特に文化財の保護継承・活用のための基盤整備については、優れた進捗が得られた。【達成目標 A・A・A・S】

○日本文化の発信及び国際文化交流の推進（施策目標12-3）

文化交流使の指名数は前年並みで全体的に3地域に及ぶ活動を展開した。二国間交流事業を除く国際芸術交流支援事業の申請数は、過去5年間の平均と比較して若干下回ったが、これは当該年度の二国間交流対象国が例年に比べて多かったことによるものである。また、海外の文化遺産の保護に関しては、基本方針が策定され、着実に「文化遺産国際協力コンソーシアム」の参加者・機関数が増加していることから、平成21年度においては、順調に達成できたものといえる。このことにより、施策目標である日本文化の発信及び国際文化交流の推進は順調に進捗した。【達成目標 B・A】

○文化芸術振興のための基盤の充実（施策目標12-4）

設定した全ての判断基準で、十分な進捗が得られている。特に、文化ボランティアの自立的・継続的な活動を推進するための環境整備や文化に関する情報提供、国語の普及・啓発、著作物の円滑な流通の促進については、想定以上に順調に進捗した。【達成目標 S・S・A・A・S・A・A】

政策目標13 豊かな国際社会の構築に資する国際交流・協力の推進

【概要】 人づくりなどに資する国際交流・協力の推進を通じて豊かな国際社会の構築の一翼を担う。このため、2の施策によってその目的の達成を目指す。

【評価】 豊かな国際社会の構築に資するための国際交流・協力の推進に向けた取組は、順調に進捗した。

○国際交流の推進（施策目標13-1）

留学生交流、教職員・学者・専門家交流については順調に進捗しており、レベルの向上を目指していた高校生交流に関しても充実のレベルは維持されている。【達成目標 A・B・A】

○国際協力の推進（施策目標13-2）

「国際協カイニシアティブ」の実現を通じた国際協力活動の促進については進捗が得られた。国際機関及び関係機関等を通じた国際的な取組への貢献については、人材育成プログラムの実施に向けてカリキュラム開発等が行われるなど、十分な進捗が得られた。ユネスコの事業については、提案された事業を概ね計画通りに実施していると報告を受けており、活動に対する評価も高いことから、順調に進捗した。【達成目標 A・A】